



沢田正巳議員

中山インターをフルインターに

これ以上の要望は無理

問 全員協議会の中で、町長から山陰道中山インターチェンジが実現することの行政報告を受けた。

しかし、そのインターチェンジは、米子方面への乗り降りしきれないハイフインターだということである。

中山地区の住民からは

鳥取方面へも乗り降りができるフルインターにという声が非常に多くある。フルインターになれば、ナスパルの残された分譲宅地が売れ、温泉も有名になるが。

答 (山口町長)

山陰道整備にあたり中



開通した山陰道名和インター付近

山地区にもインターチェンジ設置をという思いは強く、機会あるごとに必要性を訴え要望してきた。このたび、町の熱意が通じ、国土交通省や鳥取県の理解のもとにフォーラム中山付近にインターチェンジの設置が決定した。鳥取方面にも乗り降りできるフルインターの要望をしたが、既に建設中の赤碕・中山インターチェンジとの距離が短いこと、二つのインターは県道により結ばれており、この道路を利用すれば鳥取方面への乗り降りが容易であることなど、国土交通省が費用対効果、利便性、経済効果等を総合的に判断された結果であり、これ以上の要望は無理である。



椎木 学議員

赤松分校の耐震化工事は

早急に結論を出す

問 平成二十年度予算において、構造耐震指標(1S値)が0.3と0.4の大山及び名和中学校の耐震化工事は、予算計上されている。1S値が0.09の大山小学校赤松分校は、当初予算に計上されていない。

文部科学省は、倒壊崩壊の危険性が高い1S値0.3以下の建物は、最優先で耐震化工事をすべしとの通達を出している。1S値0.09ほどの程度の緊急性、危険性なのか。どのような認識で当初予算から外したのか説明を求める。

答 (小原教育委員長)

耐震改修促進法では1S値の判定基準を0.6以上とし、それ以下は耐震補強を求めている。そして0.3未満は倒壊崩壊の危険性が高いとしている。

0.09は、地震に対して非常に危険であると認識している。

教育委員会は、児童生徒の安全を第一の使命と考えている。赤松分校の構造上の問題は、校舎の壁部分の耐震性が極めて低く、全面改修が必要であるが、想定金額の約3倍、五、六千万円事業費が想定される。従って赤松地区に留まらず、町全体の問題として町民の理解を得ることが重要と考えているので、できるだけ早く結論を出したい。



耐震化工事が議論された赤松分校